

町民ふれあいトークを開催

八幡コミュニティ運営協議会は、コロナ禍における3密回避、消毒・検温の徹底等十分なコロナ対策管理のもと宿利政和玖珠町長を招き「町長とふれあいトーク」を1月21日に開催いたしました。



「町長とふれあいトーク」の内容は、先ず町長からの実績、対応策説明があり、残りの時間を参加者からの質疑応答の形をとりました。町長からの報告・説明は、短い時間の中でコミュニティから事前に依頼していた案件に対して回答してもらいました。

方向性、(6)県道玖珠山国線の早期改良の対応策です。宿利町長は、自身が平成30年に就任し、その後財政の健全化を図るため極力町からの持ち出しを抑えてきたが、令和元年には経常収支比率が95.3%になった。財政調整基金も18億円が7億円に減ってきたりして新しい建物はなるべく造らないようにしている。そういう中で八幡自治会館の増築は令和4年度と考えており、そのプランについてこれから地元と協議することとなる。池の原、本村の町営住宅は入居者の意向を尊重しながら新しく建て直したい。玖珠山国線についても、地元の意向の中で工期が速まることも有る。など報告しました。

参加者との質疑応答では、①新型コロナウイルス対策について玖珠町は独自でも先取りでやってもらいたい、②県道玖珠山国線は今がチャンスで工期の短縮に向けて動いてもらいたい、③玖珠町総合計画では計画の実践が見えるように動いてもらいたい、④山林が今は災害の根源となっているがその対策を講じてもらいたい、これに対し、①コロナは



情報が増大する町に入らないシステムになっていくが、罹患者が増大すれば町として対応に関わることとなる。②玖珠町に期成会が3団体ありそれらの活動は大きく県を動かせることも有りうると考える、また中津日田道路との接続の関連で重要路線となりうる、③総合計画は冊子を作って終わりではなく、かみ砕いて実践こそ大事でそれが主にならねばならない、④森林環境譲与税が令和3年度から本格的にスタートすることで良くその仕組みを理解し活用していきたい。と答えました。



申請額…165,000円
助成額…100,000円

活動費助成

綾垣小城集落入口に設置されていた「吾清霊社」案内石碑が、道案内のように通る旧道は非常に危険で、最近元畑集落へは本村から入る道が整備されていることも有り、本村からの元畑入口に移設。その工費を助成。迷わずに安心して元畑集落に行けるようになった。

ゴミのお悩みコーナー



問：電池は不燃物の袋に入れて出さないといけないのですか？大きな袋に10本とかもつたいないんですけど。

答：不燃物の袋に入れなくていいですよ。透明のビニール袋に入れて不燃物とは別に、第2分類の日に出して下さい。電池で不燃物の袋を満タンにすると重くて持てませんよ～！

注意！：充電式の電池は発火する危険があるので一般回収には出せません！大型電気店など、リサイクル協力拠点に持ち込みをお願いします。玖珠では「ベスト電気」がリサイクル協力拠点です。



電池は別の透明な袋に入れる